

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年3月1日発行（毎月一回発行）第686号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

彼女たちを記念して、二五年後

吉谷かおる

本・批評と紹介

パトリック・S.チェン 著／工藤万里江 訳

ラディカル・ラブ 富田正樹

ホセ・イグナシオ・ロベス・ビヒルとマリア・ロベス・ビヒル 著／祐川郁生 訳

イエスという人の物語 松永 武

小川修パウロ書簡講義録刊行会 編

小川修パウロ書簡講義録4

コリント前書講義I 小副川幸孝

日本キリスト改革派教会大会教育委員会 著

子どもと親のカテキズム 関川泰寛

キリスト教史学会 編

植民地化・デモクラシー・再臨運動

田代和久

M.ブレンナー 著／上田和夫 訳

ワイマール時代のユダヤ文化ルネサンス

手島佑郎

関川泰寛・袴田康裕・三好 明 編

改革教会信仰告白集 吉田 隆

F.アウズラー 著／鳥羽徳子 訳

二十世紀からの贈り物 大塚野百合

錦織淑子 著

わが家が天国になった 小林和夫

窪寺俊之 編著

愛に基づくスピリチュアルケア 関 正勝

四電 揚 著

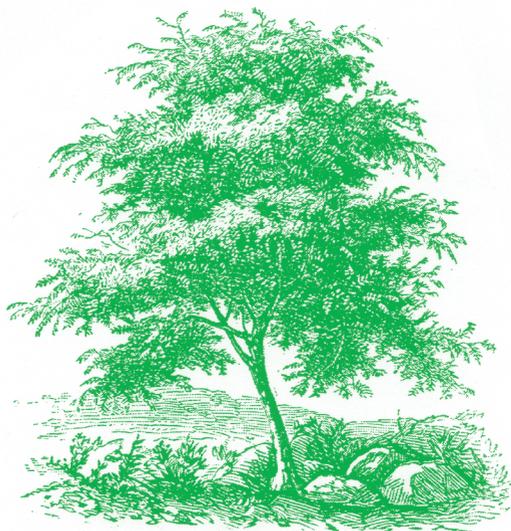
この最後の者にも 小倉和二郎

小山晃佑 著／森泉弘次 訳

富士山とシナイ山 松本敏之

近刊情報

書店案内



3 MARCH
2015

現代人に宗教のこころをよび起こす井上神父の思索の集成、シリーズ刊行開始

井上洋治著作選集5 遺稿集「南無アッバ」の祈り

山根道公 解題・解説 ◆A5判 上製・248頁・2,700円

思索を醸成しつづけた著者がたどり着いた、「南無アッバ」という祈りのこみち。自らの旅路の終着点を見つめつつ、命を賭して語ったメッセージを収録。

私たちが
お薦めします

渡辺和子(ノートルダム清心学園理事長)
佐藤 優(作家・元外務省主任分析官)／木崎さと子(作家)



シリーズ
刊行案内

1 日本とイエスの顔 ▶2015年7月刊行
2 余白の旅—思索のあと ▶2015年9月刊行

3 キリストを運んだ男—パウロの生涯 ▶2015年11月刊行
4 わが師イエスの生涯 ▶2015年5月刊行

CD版 讃美歌21による 礼拝用オルガン曲集 第5巻 礼拝の時と教会暦2 レント・イースター・ペンテコステ

飯 靖子／
志村拓生 演奏



◆38曲収録・1944円
使用ストップと演奏のポイン
トが分かる音楽CDシリー
ズ第3弾。楽譜版に収録の
全38曲を曲集の編者が演奏。

第3回

マタイ福音書を読もう3 その名はイエス・キリスト

松本敏之



◆四六判並製・218頁・1728円
マタイ福音書の通読を導く3巻
シリーズ最終巻。第3巻は19・28
章のイエスのエルサレムへの旅の
始まりから復活までを収録。

全3巻完結
最終回
配本

イベントのご案内

「NTJ 新約聖書注解」監修者による無料公開シンポジウム開催

日時 2015年3月13日(金)
18時～20時30分

会場 日本基督教団 信濃町教会

※入場無料(詳細はホームページをご覧ください)

- プログラム/司会:須藤伊知郎.....
- 1 歴史的批判的研究の宣教的な展開 発題者:辻 学
- 2 物語批評と宣教 発題者:伊東寿泰
- 3 正典は教会にとって今どんな意味を持っているか 発題者:中野 実

申込み 日本キリスト教団出版局 出版第一課

TEL 03-3204-0424 FAX 03-3204-0457
e-mail shoseki2@bp.uccj.or.jp



出会い・本・人

彼女たちを記念して、二五年後——吉谷かおる

E・S・フィオレンツァの『彼女を記念して——フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』が出版されて四半世紀になる。その一九九〇年は私が挫折感とともに宗教学の博士課程を中退した年にあたる。金輪際「勉強」はしない、と思い定めた私が細々とでも仕事と教会での働きを続けてこられたのは、ただ幸せな巡り合わせがあったからだと思う。

学生からほぼ主婦専業となったその年、当時住んでいた札幌で「女性神学を学ぶ会」（女・神・会）が発足し、友人の誘いで絹川久子さんの『聖書のフェミニズム』の読書会から参加することになった。やがて『彼女を記念して』の読書会が始まり、年末には翻訳者の山口里子さんを迎え、「彼女を記念して——聖書の中の女性解放と差別」と題する講演会を日本基督教団札幌教会で開催した。アカデミズムの中での少数者「女であること」のストレスに耐えきれず戦線離脱？した私はフェミニスト神学に触れることで徐々に息を吹き返し、その後女子大学でキリスト教の講義を担当する機会を得て、聖書と向き合い直すことになった。また日本聖公会管区女性に関する課題の担当者としては教会の中の性差別、ことに女性の司祭接手の正当性にかかわる問題への取り組みを続けている。

二〇〇四年にはE・S・フィオレンツァ来日講演旅行がついに実現、講演録『知恵なる神の開かれた家』出版のための翻訳チームに参加した。フィオレンツァ（エリザベツ）さんには大阪での講演の際にお目にかかることができた。厳しい学者として知られる彼女だが、食事会では飾らないお人柄そのままに同席した日本の女性たちを優しく激励しておられた。私も翻訳のことで言葉をかけていただき、遠い憧れだった彼女をすぐれた先達のひとりとして身近に感じるようになった。そして二〇一一年にはアン・ブロック著『マゲダラのマリア、第一の使徒——権威を求める闘い』（新教出版社）が拙訳により刊行された。アンさんはエリザベツさんの教え子だった方である。無関係に見えたすべてのことがここでつながり一本の糸になった。

札幌の女・神・会は「フェミニスト神学研究会さつぽろ」と名称変更し、今も活発な活動が続けている。頼もしい仲間にも恵まれ、学恩ある先達、ことに「日本フェミニスト神学・宣教センター」共同ディレクターである山口里子さんと絹川久子さんからはシスターフッドの実践者としてもその背中に学ばせていただいている。本を介しての女性たちとの出会いに感謝を記したい。

（よしたに・かおる 翻訳業、日本聖公会管区女性に関する課題の担当者）

神の愛の「クイア」な本質を感動的に示す
 パトリック・S・チェン著
 工藤万里江訳

ラディカル・ラブ
 クイア神学入門



富田正樹

本書のタイトルでもある「ラディカル・ラブ」（過激な愛）とは、実は神ご自身のことであり、イエス・キリストにおいてこの世に突入し、聖霊によってあらゆる境界線や障壁・敵意・憎悪を消してしまふほどの、極端な愛のことを指しています。

また「クイア神学」という呼び名を耳新しく感じる人も多いでしょうが、決して突然飛び出した珍奇な神学ではなく、既に示されてきた伝統的な神概念が、実は「クイア神学」という呼び名で捉え直し、整理できるのだということです。

著者の言葉を借りて一言で表現するならば、「クイア神学」とは、「周縁化させられた者たちのための神学」であり、またそういう意味で「キリスト教神学は本質的にクイアな試み」なのです（二五、三三頁）。

もちろん「クイア」という言葉自体が、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイ・トランスセクシュアルを含む性的少数者。セクシュアル・マイノリティともいう）を主体とした理論から出てきたものですし、著者自身も、同性婚を営んでいるゲイであり、神学者で牧師でもあるということとを根底に、彼自身の神学

を構築していることも間違いありません。

しかし、それだけでなく、彼にはアジア系アメリカ人というアイデンティティもあります。おそらくそのため、彼の神学は、性別の壁、セクシュアリティやジェンダーの壁のみならず、人種、文化、有罪と無罪、生と死といった、あらゆる境界を取り除く、究極の愛のほとばしりとしての神（ラディカル・ラブ）を描くものとなっています。

私たちキリスト者は、信仰を異にする人々を迫害し、戦争を「聖戦」として正当化し、ユダヤ人、女性、子ども、奴隷、セクシュアル・マイノリティを含む「周縁化された人々」を踏みにしてきた歴史を背負っています。そんな私たちが「神の愛」という言葉を使うとき、言葉上は間違っていないとしても、

あまりに使い古されて効力を失っているのではないのでしょうか。しかし今一度、神の底知れない愛の力を表現するにふさわしい言葉が「ラディカル・ラブ」であり、この「過激な愛」で世の人を分断するあらゆる境界を消滅させ、「すべてのものが天国に至る」（一五七頁）、「私たちが神の愛から引き離すものは

何ひとつない」（二六〇頁）と宣言するのが「クイア神学」なのです。

著者は、本来のキリスト教神学が「クイア神学」的であることを改めて明らかにするために、「伝統的な三位一体論（神、イエス・キリスト、聖霊）に則って神学を語り直しています。それは、小手先の珍解釈ではなく、「キリスト教とは本来、根本的にクイアな宗教だったのだ」ということを明らかにする、実に面白い語り直しになっています。

また本書は、キリスト者が絶対的マイノリティである日本においてこそ読まれるべき書とも言えます。そもそも、日本において教会に通う人が、日本におけるセクシュアル・マイノリティよりはるかに少ないのです。キリスト者であること自体が既に日本では「クイア」なのです。ですから、この書は日本の伝道・宣教においても非常に示唆を与えてくれます。

私たちは教会でこのようなニュアンスを感じ取ることが頻繁

にないでしょうか。「もちろん神さまは全ての人を愛しておられます。でも正直に申し上げて、それは『罪』です……」。「クイア」が「クイア」を差別する、実に滑稽な「信仰」です。

このような、人間を選別し拒否するムードを感じた人は、そのような教会自体がすでに神の愛を証しするものではないということ、本書を読めば理解するでしょう。志があるならば、私たちがこれまで信じていた教義を根本的に見直し、本当に人を救う神学・信仰とは何かを考えるきっかけとして、本書は有効に使えるはずです。

（とみた・まさき 同志社香里中学高等学校教員）

（A5判・二二〇頁・本体 三二〇円＋税・新教出版社）

イラストを交え楽しく読める
 キリスト教入門書



初めて
 キリスト教に
 触れる方に
アダムからはじまる物語
アダムからのABC

山下智子文 池谷陽子 絵
 「アダム」「バベル」「カイン」……AからZまで、旧約聖書の人物や事柄から26の言葉をとりあげたキリスト教入門書。
 A5判・130頁・1512円

こひつじたちのあいうえお
 愛からはじまるキリスト教
 B5判・106頁・1,728円



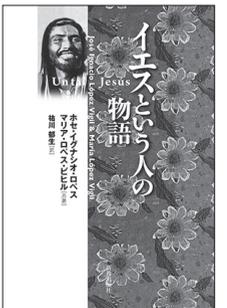
福音の喜びあふれるキリスト教おもしろエッセイ
天笑人語
 山北宣久

「イースターでイースターを」「脳より農!」「ツ離れ」「短足万歳」など、36の心を温め笑いを引き出すエッセイ集。
 四六判・136頁・1296円

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

「貧しき人々」のために生きたイエスを再現
ホセ・イグナシオ・ロペス・ビヒルとマリア・ロペス・ビヒル著
祐川郁生訳

イエスという人の物語



松永 武

本書は、南米在住の兄妹によってつくられたラジオドラマの台本に自ら解説をつけ、一九九二年にスペイン語で出版されたものである。このたび、その書の英訳がカトリック札幌教区司祭の祐川郁生神父によって日本語に訳され、昨年暮、新教出版社から出版された。

会話（ドラマ）の部分は、イエスの弟子ヨハネが年老いたあと、イエスの生涯を思い出しながら語っていくもので、一四四章の各章ごとにつけられた解説には、深い神学的・哲学的考察が加えられている。

千ページを優に超える大作を評することなど到底できないが、常日頃関心をもっている二、三のことに限って、ふれてみたい。全体の七〇八割を占める会話はわかりやすく、読みやすい。

青年イエスが洗礼者ヨハネや弟子のペトロ、ヨハネなどに出会い、友人としての交流を深めながら周りの人々に「神の国」を宣べ伝えていくようになる姿が、興味深くかつユーモラスに描かれ、一気に読みすすませるものとなっている。その会話の底に流れるものは、もちろん、四つの福音書であるが、著者の創

作によって、そのなかみを大きくふくらませている。福音書にはほとんど出てこないイエスの少年時代は、まさに「わんぱく坊主」として描き、また、父ヨセフについて、時の権力に抵抗し追われる身となった者をかくまいローマ兵士の殴打によって死に至ったとし、イエスの生き方に大きな影響を与えた人間として描いている。著者の豊かな想像力によって、人間イエスが生き生きと再現されている。

会話と解説全体に流れているのは、何よりも貧しい者、しいたげられている者の立場に立つ、イエスの生き方、福音である。「神は貧しい者を優先的に愛する」（三三八二頁）、「誰でも貧しい者のために戦わない者は、貧しい者に敵対し、貧しい者を抑圧する者たちの側に加担」（六七六頁）する。同様の会話・解説を随所に見出すことができる。

「最後の審判」のたとえ話の解説のなかで、「飢えた人々に食物を与えるという事は、食べ物の皿を与えるのではない——これはもちろん必要なことではあるが——。飢えた人々に食物を与えるとは、人々が何か食べるものを得ることを可能にするこ

とであり、それゆえ、必要なことは、慈善の行為というよりはむしろ、大多数の者が十分に食べられないような経済機構の改革である」（七五二〜四頁）と述べている。今日の「ホームレス」支援のあり方にもかかわるが、貧しい者の立場に立つ本当の意味について端的に語っているように思う。最も印象に残った箇所である。

また、本書全体を通して、民族、貧富、障害、性などあらゆる差別に反対し、神の前での人間の平等を追求したイエスの姿が明らかにされている。「カナンの女」に対する、「わたしは子どもたちのパンを取って犬に与えて時間を無駄にしたくない」（四七〇頁）とのイエスのみことばについて、憐みに欠ける「主人」（イスラエル人）の民族差別的な傲慢さに焦点を当てるために皮肉を使ったと解釈しているが、わかりにくい福音書の箇所を巧みに解き明かしながら、神の御前には境界線も民族もないことを改めて強調している。今、日本にはびこる「ヘイト

スピーチ」への警告と受けとめたい。

日本カトリック司教協議会が二〇一二年に発行した「なぜ教会は社会問題にかかわるのか」の内容にも通ずるように思うが、貧困や差別からの解放のために働くキリスト者のチャレンジと「祈り」とのかかわりについて、解説の中で、「人は一方で祈ってもう一方で活動するのではない」、「解放と神を探し求める同じプロセスの中で祈るのである」（三五九頁）、「祈りと行動は手を携えて進むものである」（五四五頁）と述べている。常日頃訳者の祐川神父がミサで話されていることも重なり、とても納得できた。

すでに紙幅が尽きている。この著書を与えてくれたビヒル兄妹、祐川神父、そして、出版の労をとっていただいた新教出版社に深く感謝しつつペンをおきたい。

（まつなが・たけしカトリック札幌教区信徒）
（A5判・一一五〇頁・本体五〇〇円＋税・新教出版社）



神論

（改革派教義学）第2巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



改革派神学は神中心的神学である。
神中心的神学にとって、
「神論」こそ教理の中の教理である。
教会的実践を視野におきつつ、
「神論」の意味を問う。

A5判・上製・函入
定価【本体4,500＋税】円
ISBN978-4-86325-047-5

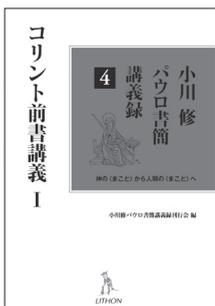


株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神の「まこと」(ヒステイス)の先行性
小川修パウロ書簡講義録刊行会編

小川修パウロ書簡講義録4

コリント前書講義Ⅰ



小副川幸孝

神学的思考というものは、何よりもまず、聖書本文を丹念に読むことから始まる。そしてそれは、おそらく、世界と人間、あるいは人間が織りなす社会についての深い考察を経て、再び聖書本文に帰る。神学的思考は、そのような思考の営みであろう。だから、その要となるのは、いつでも聖書本文に対する誠実に真剣な対峙であるに違いない。

宗教改革を行ったM・ルターもそうであるが、二〇世紀の神学を代表するK・バルトの神学も、聖書原典のギリシヤ語を丹念に読みこなし、それを解釈した『ローマ書』をもって始められている。

そして、二一世紀初頭の日本で、これまでの欧米のパウロ理解とは異なった視点でパウロ神学の理解を展開された小川修先生も、その緻密な営みを、原典ギリシヤ語を丹念に読み、固有の言語概念のもつ広さと深さを十分にくみ取ることから始められていた。

残念ながら小川修先生は二〇一一年に帰天されたが、幸いにもルーテル神学校で先生の教えを受けた人たちによって、「小

川修パウロ書簡講義録刊行会」が形成され、二〇〇七年四月から二〇一〇年一月における同志社大学神学部大学院で行われた「パウロ書簡講義」の講義録が講義の生の語り口調そのまま出版され、神学的にも聖書学的にも意義深いものになっている。先に三巻にわたる『ローマ書講義』が出版され、今回、『コリント前書講義Ⅰ』が四冊目の書物として出版された。本書は二〇〇九年から二〇一〇年にかけての「コリント書講義」の内の『コリントの信徒への手紙Ⅰ』一章から八章までの講義録である。小川修先生の最後の講義になる。

本書では、先の『ローマ書講義』で中心的主題として展開された「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」が、コリントの教会が置かれていた種々の具体的な問題との関連の中でさらに徹底した解釈原理として用いられている。

パウロの宣教によって設立された若いコリントの教会は、不信感や分派争い、結婚や性的不品行、あるいは食物規定に関する見解の相違、教会形成に関する問題など、多くの具体的な問題を抱えていた。『コリントの信徒への手紙』はパウロがそれ

らの諸問題に応える形で何通かの手紙を書いたものを収めたものである。小川修先生は、それらの諸問題が「高ぶりの信仰理解」から生じたものであると指摘され、それらの諸問題に対するパウロの見解の根底に流れているパウロの信仰理解の根幹を探りだし、そこから再び諸問題についてのパウロの見解を検証する形で論を進められている。それは、いわば聖書の「ザッヘ(主要事)」の探求である。

その「ザッヘ」について、小川修先生は、従来「信仰」と訳され、理解されてきた「ヒステイス」を「まこと」と訳され、「神の(まこと)」の先行性を強調される。「まこと」は、もし漢字表記をすれば「真」、「真実」、「真事」、あるいは、「誠」と表すことができるかもしれないが、小川修先生は、それらすべての意味を含んで、あえてひらがなで、「まこと」と表されている。それは、M・ルターの「恵みのみ」やK・バルトの「啓示」、あるいは滝沢克己の「インマヌエル」につながる

るものと言えるだろう。神の(まこと)は人間の(まこと)に先行し、まさに「愛」として、人間の(まこと)に呼びかけ、人がその呼びかけに応える姿において人間の(まこと)を形成する。そのとき人は、具体的な諸問題に対して愛と配慮をもって対応していくことになる。本書は、そういうパウロの姿をも浮き彫りにしてくれるものである。

また、本書は、神学的に意義深い一冊であると同時に、(笑い)といったような講義の情景がそのまま再現されているので、信仰の実存的形態である先生の人格と共に読める一冊であり、後半の出版が待たれる書物である。

(こそえがわ・ゆきたか)九州学院チャプレン
(A5判・三八三頁・本体三〇〇〇円+税・リットン)

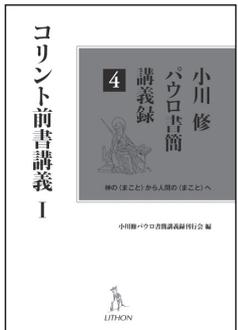
お詫びと訂正 本誌二〇一五年一月号、一八頁下段二行目、「新しい解釈」は「新しい解放」、一九頁上段二行目「超民族者」は「超民族主義者」の誤りでした。お詫びして訂正します。
(編集部)

小川修パウロ書簡講義録4

コリント前書講義Ⅰ

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

●A5判上製 三八三頁 ●定価三二四〇円



新刊

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

教会学校や洗礼志願者の学びのために
日本キリスト改革派教会大会教育委員会著

子どもと親のカテキズム

神さまと共に歩む道



関川泰寛

本書は、日本キリスト改革派教会大会教育委員会によって作成された、子どもと親の信仰養育を目的とするカテキズムです。すでに、さまざまなカテキズムが、翻訳されたり、新しく執筆されたりしていますが、教会挙げて作成されたカテキズムが新たに世に送り出されたことはまことに喜ばしい限りです。

カテキズムは、「信仰問答」と訳されますが、宗教改革の時代に、プロテスタント教会が新しい信仰共同体を教理的な基礎の上に築くために、教理の基本を子どもたちに伝えることによつて、信仰の養育を目指したものです。一六世紀の、ルターの『小教理問答』、カルヴァンの『ジュネーブ教会信仰問答』、さらに一七世紀の『ウェストミンスター小教理問答』などがよく知られています。

今日新しいカテキズムを作成する目的は、二一世紀の日本の子どもたちに、より分かりやすく、しかも信仰の要をしつかりと伝えるところにあるでしょう。日本という伝道地にも、教理に根ざした信仰問答がぜひ必要なのです。本書は、『ウェストミンスター小教理問答』が、今日のわたしたちには、少し難し

く感じられるために、そこへの橋渡しの役割を意図して作成されました。カテキズムは、日本のような伝道地には、不向きであつて、もつと子どもたちには、聖書の物語を自由に伝えるべきだという主張をよく耳にします。

しかし、カテキズムをしつかりと用いることは、聖書の物語を無味乾燥なものとするのではなく、むしろ、あらゆる人間的な読み込みや解釈から自由になって、聖書そのもののメッセージを教会中に響かせるために必要なのです。

カテキズムという言葉は、カテケイン（響く）に由来すると言われています。教師が教える人、生徒が学ぶ人という固定概念で考えるのではなく、教会がそれに生き、大切にしてきた信仰の言葉を、教える者と学ぶ者が互いに響かせ合いながら、信仰の道を歩むことができます。本書には、「神さまと共に歩む道」という副題が付されていて、カテキズムを教える者も読む者も、ともに神さまの示してくださった救いの道を一歩一歩、主の霊に導かれて進むことができるようになっていきます。

さて、本書には、使徒信条、ニカイア信条、そして十戒と主

の祈りが、はじめと終わりに掲げられています。印象的なのは第一問です。「私たちにとつて一番大切なことは何ですか」に対して、「神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです」と答えます。その後、第一部「信じて歩む道」、第二部「教会と共に歩む道」、そして第三部「感謝しつつ歩む道」と展開し、道という言葉が全体の鍵語となつて、しかも子どもたちが、神の契約の子として、教会共同体に招かれ、育てられるという明確な神学的な道筋を辿ることができるように、信仰問答が作成されています。

わたしたちの課題は、このような神学的な構造をしつかりと持つカテキズムを生かすためには、それらが指し示す生けるキリストの現臨の中へと子どもたちを招く営みに、カテキズムを作成した教会全体が参与するところにあると思います。

評者自身は、日本基督教団内の連合長老会に長く属し、「明解カテキズム」「続・明解カテキズム」の註解の作成に関わつ

てきました。そこでの実感は、一つのカテキズム作成には、予想を超えるエネルギーが必要であるというものでした。しかし、その作成に尻込みしているわけにはいかないのです。今この時、教会がカテキズムを作成して実際に使用することが待たなしの課題です。その意味で、本書の出版を喜ぶとともに、諸教会が実際にこれを用いて、子どもたちの信仰の養育に取り組みれることを切に願つて止みません。

(せきかわ・やすひろ)東京神学大学教授、日本基督教団大森めぐみ教会牧師
(B6判・六四頁・本体五〇〇円+税・教文館)

齋藤孝志著
応答・小野寺 功師
ヨハネによる福音書に徹して聴く (13~21章) *全3冊完結・発売中!

「聖霊の心地よいそよ風がわたしの心のうちに吹いています」と吐露する著者は、渡辺善太先生との出会い、同時に聖書的説教への取り組みが生涯一貫する焼き印でもあり、姿勢でもある。開拓伝道から教会をいくつも起こしながら、説教の取り組みに人一倍情熱を傾けて取り組まれた珠玉の一点が本説教集全3冊に見事に結実している。通勤や家庭集會時のテキストに最適。

ヨハネ福音書02(三〇四頁・一〇〇〇円(税別))

齋藤孝志の本

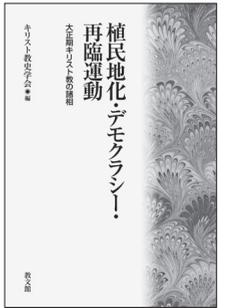
- 無限の価値と可能性に生きる
—使徒言行録全説教
*A5判・488頁・3400円+税
- 道・真理・命1 (1~6章)
- 道・真理・命2 (7~12章)
- キリストの体である教会に仕える
エフェソ書に徹して聴く
- まことの礼拝への招き
レビ記に徹して聴く
- クリスチャン生活の土台
引退講演「人格形成と教会の形成」つき
*ヨベル新書・各1000円+税

東京ミッション研究所 冬季フォーラム
《聖書的説教の一方法論》
講師：齋藤孝志師
レスポナント：金本 悟師
2015年2月23日(月)
午後2時30分~
東京・お茶の水：OCCビル416号室
参加費無料

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

二つの時代の狭間にあるキリスト教
キリスト教史学会編

植民地化・デモクラシー・再臨運動
大正期キリスト教の諸相



田代和久

本書は二〇一三年九月明治学院大学で開催されたキリスト教史学会第六四回公開シンポジウムを書籍化したものである。限られた紙幅の中で個々の論稿の論評は無理であり、テーマに関わる若干の感想を述べるに止めたい。

フロアーから「三つのテーマである植民地化、デモクラシー、再臨運動の関連性」が見えないという指摘がなされているが、書評子を含め一読する誰もが抱く感想であろう。

つまり大正期キリスト教と三つのテーマが内的・有機的に結びついているかという疑問である。同時代史の感覚からすればむしろ明治キリスト教の歴史の展開として捉えることが適当ではないかということである。大正期をカバーするから大正期に固有のキリスト教の歴史像ということにはならない。

それは一九一二年二月二十五日の「三教会同」に至る日露戦後のキリスト教会の動向をどう捉えるか、という問題である。

「三教会同」を前に有力教派教会は、日露戦後の独立意識の高揚を背景に関係外国ミッションとの協力関係を清算し、組織の強化・整備を自給独立という形で実現させた。日本人教職者

の主導によるキリスト教会を内外に宣言したのである。外国ミッションの教会から日本国民の教会という社会的認知がなされる中で、キリスト教会は「三教会同」に招聘されたのである。そこでは「皇運を扶翼し国民道徳の振興」と「政治宗教及教育の間を融和し、国運の伸長に資せられんこと」が神道、仏教に加えてキリスト教に求められたのである。キリスト教会では一部のものを除き、大勢はこれまで外国ミッションの教会という猜疑心故の疎外感に苛まれた状況が日本古来の宗教と相並んで認知されたとして歓迎された。

問題はキリスト教が「皇運を扶翼」することに期待されたものは何であるかということである。それは国家神道としての天皇信仰の本質に関わることでもある。日本の思想文化の文脈では天皇という存在はいかなるものであろうか。先ず第一に天皇は記紀神代巻による「神孫為君」であり、第二に道徳の根源として「有徳者為君」であり、第三に全き仏者として「十善君主」であった。第一が神道に第三が仏教に支えられた。第二は「三教会同」には純粹宗教の埒外ということで招聘されなかつ

た儒教であるが、儒教は「還俗宗教」（小崎弘道）として「教育勅語」を通じて天皇の道徳的權威付け、神格化に動員された。つまり「三教会同」を通じてキリスト教に要請された最大の眼目は天皇を神とする天皇信仰を支える陣営への参加である。そこには明らかにキリスト教会を天皇信仰へ包摂させようとする強い国家意思が窺える。それは結果として、キリスト教会の觀念としての天皇制への限りなき「すり寄り」以外のなものではなかった。

これを機に、キリスト教会は植民地伝道を志向するもの、教会信徒を督励して信仰共同体として強固な教会の構築を図る立場、あるいは教育や出版を通じて伝道の実を上げようとするエスタブリッシュとしての教派教会と、再臨運動に典型化される宗教的熱情運動を主導するマイノリティに二分化される。まさに「三教会同」は幕末・明治期を通じて展開されたキリスト教活動の到達点であった。昭和期に入り、その観念性を脱ぎ捨て

具体的に「天皇かキリスト教の神か」という決断を迫られる中で、明治キリスト教のエスタブリッシュの選択が大正期を狭間に昭和期に当該教派教会ではなく宗教的熱情を貫く小会派に犠牲を強いたのである。

最後にテーマを貫く立場について、フロアーからの同時代の歴史状況の指摘は当然として、キリスト教に焦点を絞れば、「神の主権」、「恩寵のダイアレクティブ」の立場から人間所産の全てを、つまり文化全体を神学の対象とする「高倉神学」を視野に入れることで明治と昭和という二つの時代の狭間にある大正期のキリスト教の諸相と特質が明らかになるのでは、という印象を持った。

（たしろ・かずひさ 日本聖書神学校講師）
（四六判・二五二頁・本体二五〇〇円＋税・教文館）



医者や薬がなくてももう一つと 渡辺 聡著
引きこもりから生還できる理由

東京バプテスト教会のダイナミズム3
ワクワク感で乗り越えた5つの実話！ ヒピリカルな生き方という選択。現代日本の中で大きな社会問題となっているうつや自殺。救いを求めて駆け込むクリニックで処方される薬の副作用で苦しむ多くの人々。医者や薬以外の第3の解決方法はないのだろうか？「生還者」の実証するTBCの新たな信実の記録。 ●ヨベル新書028・一、〇〇〇円＋税

渡辺 聡の本
東京バプテスト教会のダイナミズム
日本唯一のメガ・インターナショナル・チャーチが成長し続ける理由
著しい成長と充実した各種ミニストリーの働きを通してどのような過程を経ながら現在の形をなしたかのレポート。 ●ヨベル新書 003・1,000円＋税

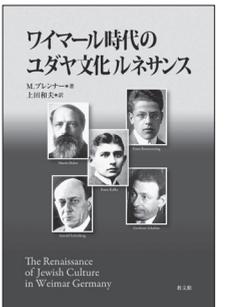
東京バプテスト教会のダイナミズム2
渋谷のホームレスがクリスチャンになる理由
東北支援活動で的確な働きをした、救われたホームレスの人たちの、具体的に心温まる奉仕活動の証しでもある。 ●ヨベル新書 010・1,000円＋税

東京バプテスト教会のダイナミズム第1巻の翻訳版
英語版 Dynamism of Tokyo Baptist Church
Spiritual Testimonies from a Growing Church in Tokyo, Japan
インドネシア語版 Kemajuan dalam Gereja Baptis Tokyo
Kesaksian-Kesaksian Rohani dari Gereja yang Sedang Bertumbuh di Tokyo, Jepang
各 A5判・本体 800円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

現代ユダヤ文化理解のための必読書
M・ブレンナー著
上田和夫訳

ワイマール時代の ユダヤ文化ルネサンス



手島佑郎

本書の著者ミヒヤエル（英語読み・マイケル）・ブレンナーはコロンビア大学で博士号を取得し、ミュンヘン大学でユダヤ史とユダヤ文化を教えている。ワシントンアメリカ大学ではイスラエル学講座を担当し、レオ・ベック研究所の国際部門担当副所長、ヘブライ大学のフランツ・ローゼンツヴァイク・センター長を兼務するなど、多岐にわたって活躍している。

* * * * *

著者は、広範囲にわたるワイマール時代のドイツ・ユダヤ人の活動とその内面的問題をめぐりに一冊の本にまとめている。周知のように、ドイツ系ユダヤ人の多くは、すでに一九世紀中期には「ゲット」から出て、ユダヤ教の伝統的宗教的束縛を離れ、近代的な自由な市民として歩みはじめていた。法的には彼らは平等な市民になっていたが、相変わらず政府役人や軍隊、学問の世界で要職から締め出されていた。さりとて、「ユダヤ人であることをおいそれと辞めるわけにはいかない。自己を否定したところで何の解決にもならない」。だからこそ、ワイマール時代のユダヤ人は本物のユダヤの文脈を求めて文学、

学術、芸術、工芸など全ての分野で、ユダヤ性を表現することに努めた。ユダヤ人がユダヤ性を追求する。こういうことは、後にも先にもワイマールのユダヤ人にしかなかった現象である。本書の第一部で著者は、「ドイツ系ユダヤ人の中にある共同体への欲求」に関して、その自己定義が「信仰の共同体から運命と出自を共有する共同体」へ移行したと意識レベルの変化を指摘している。さらにドイツ・ユダヤ人共同体にはケヒラー「シナゴークを形成する会衆」から発達した社会福祉、文化教育の分野での地域共同体（ゲマインデ）としての活動がある。第二部では、ローゼンツヴァイク、アハド・ハアム、カフカ、ブーバー、シヨレム、ドウブノフ、ピアリック、アグノン、ソルシーノ協会、YIVO、シヨッケンなど、現代のユダヤ学専攻の学生たちに馴染みある人物名や団体名が続出している。そこには、近代化＝ワイマール時代という大渦の中で、いったん伝統的ユダヤ教と訣別したものの、あらためて自分たち自身に本物のユダヤ性を回復しようとして探索していた彼らの姿が生き生きと紹介されている。

彼らの中からイディッシュ語文学やイディッシュ語劇団が生まれた。彼らはヘブライ語の普及にもつとめ、ヘブライ語新聞も発行した。その実験が、後にシオニストたちのパレスチナ移住と共に、父祖の地でのヘブライ語国語化につながったのである。

ユダヤ人にとって最大の行事である「過越し」(Passover)の宵に家族で読む伝承集「ハガダー」に美しい挿絵をほどこしたシユタインハルト版や、オッフエンバツハ版は、ユダヤ画家たちの創作意欲を刺激した。愛書家の好みに合致する印刷用ヘブライ文字書体もドイツで開発された。シェーンベルクやハインリッヒ・シャリト等は、新しいユダヤ音楽の領域を開拓した。

ドイツで計画され、途中で挫折した百科事典の企画は、海を渡ったアメリカで一九〇一年から一九〇五年にかけて一二巻本 *Jewish Encyclopedia* として出版された。

本書は、シオニズムの背景や現代ユダヤ文化を理解しようとする人にとっては、幾度も読み返すべき必読書である。最後に、三二〇ページに及ぶ原書を読みやすい日本語で丁寧に翻訳した訳者・上田和夫氏の努力と献身に心からの敬意を表したい。なお、膨大な人名やヘブライ語用語に関しては、今後、関係者の間で、そのカナ表記の標準化が図られる事を望みたい。ヘブライ語名のカナ表記に関しては、訳者によってそれぞれの見解もある。だが、人名に限らず外来語のカナ表記の場合、最近では、概して長音記号「ー」や促音表記のための「ッ」などを使用しない傾向にある。慣用的表記が定着していない人名などの場合も、できるだけ簡素な表記が望ましいのではなかろうか。

(てしま・ゆうろう＝ギルボア研究所代表)
(A5判・四〇〇頁・本体三九〇〇円＋税・教文館)



烈しく攻める者が これを奪う

新約学・歴史神学論集

住谷眞
Makoto Sumitani

烈しく攻める者がこれを奪う
新約学・歴史神学論集

住谷 眞

qui edens deus creatus est et iudis
qui et exortantur unumquodque
interdum iudis et regnat quere
et aliquid aguntur et dicitur
videtur iudis et videtur regni
videtur et videtur videtur
Dus regnumu bonau
redemptio regnumu
certum profuturum velit
mentum latitare et videtur
et dicitur videtur fide
tibus propitius? rimentus
ma fugietur exomunitione
for indumentu iudicatus cu
tus et contrampti. nuda ligu
sione que molitur famula. le
tes huiusmodi et. fuit. iudis
matu et pspatit portus

神学と文献学の間を
往還しつつ、
crux interpretum
(解釈者の難所)
に取り組んできた
渾身の論文集。

A5判・上製・函入
定価【本体5,400＋税】円
ISBN978-4-86325-063-5

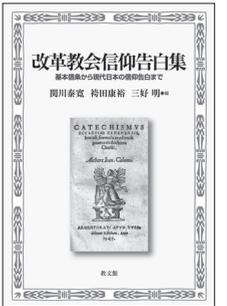


株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

日本の改革・長老教会の一つの到達点がここに！
関川泰寛・袴田康裕・三好 明編

改革教会信仰告白集

基本信条から現代日本の信仰告白まで



吉田 隆

古今（一六〇二世紀）東西（欧米・アジア・アフリカ）の改革・長老教会が生み出した信仰告白を一〇九も集めた記念碑的な『改革教会信仰告白集』（一麦出版社、二〇一一年）（二〇一三年）や、日本初の改革・長老主義諸信条に基づく教会として設立された日本基督一致教会の「信仰ノ簡条」（ドルトレヒト信仰規準・ウェストミンスター信仰告白・同小教理問答・ハイデルベルク信仰問答）の画期的覆刻版（教文館、二〇一三年）出版の興奮冷めやらぬ間に、この度の出版である。二世紀は「信仰告白の世紀」かと思わず力が入る。

本書は、基本信条・改革教会の信仰告白・日本の教会の信仰告白の三部・一八の信仰告白からなる、日本の改革・長老主義伝統に生きる編者と訳者たちによって成し遂げられた、言わば決定版『改革教会信仰告白集』である。収録されている信仰告白の訳者・解説者たちも、おそらく現時点で望める最高のキャストであり、その意味でも本書は我が国における改革・長老教会の一つの到達点を示す書物であるとも言えよう。

他方で、冒頭で述べた二つの信仰告白集と異なる点は、ニカルの日本版のようにも見えてくる。ちなみに後者に収められている文書は、ニカイア・使徒・スコットランド・ハイデルベルク・第二スイス・ウェストミンスター告白・小教理・大教理・バルメン・一九六七年信仰告白・合衆国長老教会信仰の短い声明である（最後の二つは、一麦出版社『信仰告白集』で読める）。改革・長老教会の神学的伝統は決してカルヴァン一人に帰されるものでなく多彩な神学者たちによる総合的伝統であることが、今日常識となりつつある。それは決して真理の相対化ではなく、むしろ絶対的規範である聖書そのものが持つ豊かさに対する真摯な取り組みの結果である。改革・長老教会の信仰告白が決して閉じられていない（その意味では「決定版」になりにくい！）のは、そのためである。今や広く用いられるようになった「改革され続ける教会」という標語もまた、元はと言えば一七世紀オランダの改革派正統主義において用いられた言葉であり、正統主義路線の変更ではなく、より聖書的に正しい

イア・カルケドン・アタナシウス・使徒信条という四つの基本信条を含んでいる点である。改革派教会は聖書の絶対的権威を主張して教会会議を相対化したためにカテキズムで用いる使徒信条以外はあまり馴染みがないかもしれないが、とりわけ三位一体とキリストの二性一人格の教理において基本信条を継承していることは内容において明らかである（例えば『スコットランド』一、六〇。何より『ベルギー信仰告白』が明確に使徒・ニカイア・アタナシウスの三信条を受け入れることを表明している（第九条）。これにカルケドン信条を加えて四つにしたのは「日本基督改革派教会信仰規準ノ前文」にならったのかもしれないが、元はと言えば、同『前文』の起草者たちが精読したシャフの『信条集』に基づいていると思われる。

いずれにせよ、こうして基本信条と改革・長老教会の主要信仰告白を合わせた本書を眺めていると、さながら改革派教会の「一致信条書」のようにも見え、あるいはまた「バルメン宣言」や自国の信仰告白をも加えて一冊にしたアメリカ合衆国長老教会（PCUSA）の信条文書集（Book of Confessions）

信仰に生きるために我々自身が変革される必要を訴えた言葉なのであった。改革派教会は、一にも二にも聖書に基づく信仰によって立つ教会なのである。
宗教改革五〇〇周年に備えて、ルター派・改革派を始めとする世界のプロテスタント諸教会が動き出している。本書序文に「落ち葉が積み重なるように」形成された諸信仰告白（三頁）とあるように、神の言葉に生きまたそれを求め続けた人々の、信仰の言葉の堆積が「信仰告白集」に他ならない。このような真に豊かな土壌から、二一世紀を切り開く新しい若芽が次々と芽生えて来るように、祈りを込めて本書を推薦したい。

（よしだ・たかし 神戸改革派神学校校長）
（A5判・七四〇頁・本体四五〇〇円＋税・教文館）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

現代の教会を考えるブックレット
好評シリーズ！

牧会って、なんだ？

牧会の現場から、牧会とは何かを考える！

長年、都会や地方での牧会を経験したベテラン・中堅牧師たちとの対話を基に、その実践例や課題を含めて考察する。

シリーズの巻目

- ① 健康な教会を築くために——その診断と処方
- ② 本 体 1,200円
- ③ 宣教師になろう——現代の課題と展望
- ④ 本 体 6,000円

現場からの提言

越川弘英 ● 編著

キリスト新聞社

351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (郵格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

好評につき再版！
2刷

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (郵格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

苦難に打ち勝った人々の話
F・アワズラー著
鳥羽徳子訳

二十世紀からの贈り物 現代のたとえ話2



大塚野百合

本書の著者チャールズ・フルトン・アワズラー（一八九三—一九五二）は米国のジャーナリスト、作家であり、彼の代表作『世界最大の物語』（一九四九）は映画化され『偉大な生涯の物語（イエス・キリスト伝）』として日本でも上映されました。それを劇場で見たときの感動を今でも鮮明に覚えています。彼は一九五〇年に『現代のたとえ話』を刊行しました。それは『シカゴ新聞』に連載した二二八のエピソードを集めたものでした。そのなかの三四話を鳥羽徳子さんが訳し、『現代のたとえ話』という題で一九七四年に教文館から刊行されました。

それから四〇年経った二〇一四年に、『現代のたとえ話』の原書から三六話を選んで鳥羽さんが訳したのが本書『二十世紀からの贈り物——現代のたとえ話2』です。一九四〇年代の米国人に向けて書かれた記事が現在の日本人の心にも訴えるメッセージを持っているという確信から生まれたのが本書です。

それでは著者のアワズラーという人は信仰の面でのどのような遍歴をした人なのでしょうか。彼は米国メリーランド州ボルチモアの貧しい労働者の息子でした。両親は熱心なバプテスト派

の信者でしたが、彼は一五歳で信仰を捨てたのです。ところが彼は色々な才能に恵まれていたので、雑誌の編集者として活躍しながら小説、ドラマを書き、推理小説家としても頭角を現していました。

ところが彼が五〇歳になった一九四三年に、彼の人生に大きな変化が起こりました。彼はカトリックに改宗し、妻も子供たちも信者になったのです。ナチズムと共産主義が勢いを増しているのを憂慮した彼は、どうすればよいかといろいろ悩んでいるうちに、自分の魂のふるさとであるキリスト教に戻ったのです。一九四九年にイエス伝である『世界最大の物語』を刊行したのは、彼がイエスによる救いを体験した喜びの結果でした。それを書いていくころ、彼は『現代のたとえ話』を新聞に連載していました。多くの人々が人生の様々な苦難で悩んでいるのを知って、苦難に打ち勝った人々の話を新聞に書いて彼らを励まそうと願ったからでしょう。

苦しみに打ち勝つには、自己中心の生き方を止めて、他人を助ける生き方をすべきであり、また神に頼って真剣に祈ること

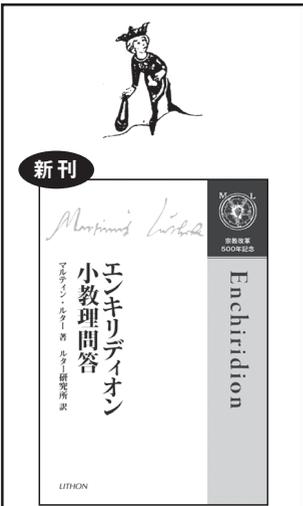
が必要であると彼は考えており、そのような事例を彼は「シカゴ新聞」に連載し、多くの人々に生きる勇気を与えたのでした。このように見えますと、三五年近く神とイエスに反抗して、神のない世界に生きる苦しみを味わった著者アワズラーが、神を信じ、苦しいときに祈ることが出来た時にどのように大きな喜びと幸せを感じたかを私たちは想像することができます。

第11話「失われたチャンス」はマージョリーという女性が映画のスターになることを熱望しており、主役になるチャンスが訪れたのですが、彼女は結核に罹っていたので、チャンスは失われました。その彼女の心の支えになったのは讚美歌三三〇番「主よみもとに近づかん」の歌詞を書いたサラ・フラワー・アダムズの話です。彼女は英国の女優で「マクベス夫人」を演じて好評を博したのですが、結核で舞台から降りたのです。

ところで私が一番好きな話は第23話「真夜中の讚美歌」です。英国海軍の若い兵士が結婚式の直後ドイツの空襲で、自分の家

とそこにいた妻と自分の家族を失ったのです。それを知った米国の牧師は彼と一緒に讚美歌二八八番の「たえなるみちしるべの」を歌う以外に彼を慰める方法がなかった、という話です。賛美歌について本を書いている私は、賛美歌がどんなに大きな力を持っているかを再認識しました。「たとえ話」という題ですが、書かれているのは架空の話ではなく、実在した人物の話であることは嬉しいことです。ぜひあなたが一番好きな話を選んでください。日本にもこのように実例を通してキリスト者の生き方を示す本が書かれることを願っています。

（おつか・のゆり＝恵泉女学園大学名誉教授）
（B6判・一八八頁・本体一七〇〇円＋税・教文館）



エンキリディオン 小教理問答

ルター著 ● ルター研究所訳
● B6判並製 ● 定価：900円＋税

日本福音ルーテル教会
宗教改革500年記念事業
推奨図書

ルターがキリスト者、またその家庭のために著した『エンキリディオン（必携）』の新たな全訳。本書の歴史的意義とそれが現代社会に持つ意義とは、徳善義和ルーテル学院大学名誉教授（ルター研究所初代所長）による「まえがき」と巻末の「解説」によく示されている。

ISBN978-4-86376-038-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

暗い影を落とす現代の家庭へあたたかな証し
錦織淑子著

わが家が天国になった わが家に訪れた恵みの証し他



小林和夫

このたび、すばらしい伝道者、牧師の家庭の証しとして『わが家が天国になった』が出版されて、感謝しながら、また、エキサイトしながら読ませていただきました。

これは誰が読んでもわかりやすく、むずかしいところはあります。しかし、牧会者の奥さんとしての著者と、そのご家庭の様子が手に取るように描かれています。著者のご苦労とご主人の錦織博義先生の深いおもいやり、助けのもとに推敲された書物であります。若い時代に信仰を持たれて、今までにない世界が著者に与えられ、本場に「わが家が天国になった」という真実な恵みの叙述が出てきます。どこから読んでもよくわかる書物ですけれども、初めから終わりまで読まされてしまうような思いが与えられる書物です。この国で伝道しておられる牧師先生のご家族、とくに牧師の支え手として主に仕える姿が目の前に、絵を見るように明らかに描かれるような感じがします。

現代は普通の家庭でも、とくに親と子の関係は複雑を極め、暗い影さえも落としているような時代のなかで、このような証しの書物ができたことを友人としての評者も、新しい分野に目

が開かれてきたような気がします。とにかく、読んでください。きつと惹きつけられます。ですから、内容の説明などは必要ないと考え、ご家族のことを親しく知れる者として、まずご家族の紹介をしたいと思います。

ご主人の博義先生は長い間のご奉仕のなかで、各地の集会でよきご用を続けておられます。著者の奥様については本書の中に詳しく記述されていますので、ぜひ読んで参考にしてください。お子たちは、四人の男子であり、長男の寛君は、現在、東京聖書学院院長として、また東京中央教会の牧師としてよきご用を続けておられます。次男の学君は、アメリカ、ニュージャージー日本語教会で、色々な問題に遭遇する外国で暮らす日本人のよき牧者として活躍しております。三男の充君は、東京聖書学院の事務の責任を負っております。四男の智君は、小さい時からホーリーネス教団の聖会時には、大勢こられる信徒たちの食事の後片付けをしたり、食堂のよき助け手でありました。今は社会人として活躍中であります。題名のような「わが家が天国になった」という恵みの事実を証しされています。

評者の友人の村上宣道先生は、本書がまだ部分的にできつつあるときの序文に、「この両親の祈り深くして、しかも愛情いっぱいの体当たり育児が、今日の彼らをあらしめているのだと、これを読んでつくづくと納得させられる。家庭、親子、兄弟というが、ことばからくる響きの美しさとは裏腹に、そこにはきれいで済ませられない、愛し合っているが故の厳しい現実がある。著者の錦織牧師夫人は、それから目をそらさずにこれともろに取り組み、そしてひたすら主を仰ぐ。むずかしくも、しかし主から委託された光栄ある育児という大事業、試行錯誤を繰り返しながらこれと真剣に取り組んでおられる方もおられよう。そうした方々にとっては特に、本書はどんなに大きな励め励まし、そして光を与えてくれることになるであろう」と、記しています。

評者は思わず、詩篇一二七篇一から五節「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。……主はその愛

する者に、眠っている時にも、なくてはならぬものを与えられるからである。見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり、胎の実はいの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。」同様に、詩篇一二八篇一から四節「すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。あなたは自分の手の勤労の実を食べ、幸福で、かつ安らかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの実を結ぶぶどうの木のようにあり、あなたの子供たちは食卓を囲んでオリブの若木のようにある。見よ、主をおそれる人は、このように祝福を得る」を心に熱く想起させられたことでした。

(こばやし) かつお 東京聖書学院名譽院長、名譽教授
(四六判・二二四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル)

新刊

Kemajuan dalam Gereja Baptis Tokyo
Kesaksian-Kesaksian Rohani dari Gereja yang Sedang Bertumbuh di Tokyo, Jepang
Akira Watanabe

◆英語版に続く「インドネシア語版」……非常に実践的であり、生活を根ざした具体的な適用を伴った信仰であり、魂を追い求める非常に伝道的な姿であり、目的をしっかりと定めた教会の姿である。(日本語版書評より・錦織寛師：日本ホーリーネス教団・東京中央教会牧師) * A5判・一三〇頁・八〇〇円＋税

既刊

Dynamism of Tokyo Baptist Church
Spiritual Testimonies from a Growing Church in Tokyo, Japan
Akira Watanabe

社会学的な視点も大切に、教会のあり方を検証したフィールドスタディー！好評の『東京バプテスト教会のダイナミズム』の英語版！資料や記述は最新版をもとに改訂されています！ * A5判・一二〇頁・八〇〇円＋税

株式会社ヨベル YOBEI Inc.
info@yobei.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

スピリチュアルケアの貴重な実践記録と理論の書
窪寺俊之編著

愛に基づくスピリチュアルケア

意味と関係の再構築を支える

本書は、これまでに（スピリチュアルケアを学ぶ）として出版されてきたシリーズの第五集です。この第五集もこれまでのシリーズ同様、聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターが主催したスピリチュアルケア研究講演会での講演三本と原著論文二本からなっています。

第一部は、それぞれホスピスの現場に取り組み医師による講演からなっています。山形謙二（神戸アドベンチスト病院院長）による「新しい人生の希望——ホスピス医療の現場から」、山崎章郎（在宅診療専門診療所ケアタウン小平クリニック院長）による「ホスピスケアの目指すもの——ケアタウン小平の取り組み」、そして川越厚（医療法人社団パリアン理事長、クリニック川越院長）による「在宅ホスピスケアと医の原点」を載せています。そして、第二部は理論編ともいべき論文を二編、小森英明（作家、浄土真宗僧侶、東京看とり人プロジェクト副プロデューサー）の「スピリチュアリティの架橋可能性をめぐって」、そして、本書の編著者である窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）の「スピリチュアルアセスメントとしてのヒス



関正勝

トリー法——『信望愛』法の可能性」と題する論考を載せています。

わたしたち人間は関係存在であり、具体的には社会的、身体的、そして精神・心理的な次元を含んで他者との関係を生きています。しかし、関係の貧困が生活世界に現実となっている今日、人間の存在は部分化され、その部分が所有と支配の対象とされかねません。この構図は科学技術の領域において特徴的である、といえましよう。科学技術としての医療が病気を見て病人を看ないと批判される理由の一つがこの点にもあることでしょう。いのちの終末期など人生の危機的状況の中で、これまで生きてきた意味や存在の意義の喪失といった根源的な問いに直面している者にとって、部分的なアプローチでは、その病める者の苦悩に接続することが困難とならざるを得ないでしょう。それゆえ、本書副題「意味と関係の再構築を支える」が示唆しているように、終末期を迎えて関係や意味の喪失に直面している者それぞれが持っているニーズ（内省ニーズ）、「宗教的ニーズ」を感じ取り、聴き取って、「自己肯定」（自己の存在と

意味の回復）を支援するスピリチュアルケアの意義が多面的に論じられます。病院での緩和ケアの現場から、愛の実践の場として「満ち足りた死」を可能とするケアを（山形）、病気になるっても安心して暮らせる地域社会（コミュニティ）の創出、そのような地域社会を作り上げていく基本概念としてのホスピスケアを（山崎）、患者だけでなくその家族・遺された者へのケア、すなわちトータルケアに取り組み「医の原点」として在宅ホスピスを（川越）、それぞれが豊かな臨床経験を通して示してくれています。

小森論文は、スピリチュアリティの語義が多様であるため混乱のある現場でのそれぞれの理解に架橋可能性を問うものです。医療現場が「死せる他者」との関係が「取り結びやすい」ところとなるようにと提言します。スピリチュアリティやケアの領域で先駆的な研究をしてきた窪寺は、スピリチュアルケアとは「患者の生きる土台や拠り所を患者と一緒に探し出して、その

人に適したケアを提供しようとするもの」とし、それは個人的世界的の出来事にかかわるため、ケアする者は「アセスメント」を患者と共有する必要があることを述べます。そして、これまで用いられているスピリチュアルヒストリー法のひとつとして新たに「信望愛」法を提唱します。この提唱の詳細をここで紹介する余裕はありませんが、それは患者の全人的ケアのための「情報収集」を含んだ、しかし「補助手段」であること、さらに臨床で重要なことは「患者との信頼関係形成が不可欠であり、医療者の誠実さ、思いやり、謙遜などが患者のスピリチュアルヒストリーを聴き出す重要な要因である」との指摘は、ケアが単なるテクニクではないことにわたしたちを立ち返らせてくれます。

（せき・まさかつ 立教大学名誉教授）

（A5判・二三三頁・本体三〇〇円＋税・聖学院大学出版会）

春風社の新刊



キリスト教人権教育論——個人の尊厳を見つめて

東洋英和女学院大学教授 吉岡良昌

◆二十七年に及ぶ、キリスト教に基づく人権教育の探究と実践。

すべての教育は個人の尊厳を基盤とするべきであり、その実践にはキリスト教の人間理解と価値観が不可欠であることを、南原繁、森有正、コメニウス、エリクソンらの主張に触れながら、歴史的に立証。ミッションスクール意義も問う提言の書。

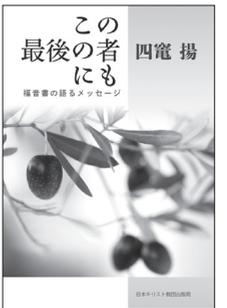
春風社

〒220-0044 横浜市西区
紅葉ヶ丘53 横浜市教育会館3F
info@shumpu.com
http://www.shumpu.com
TEL 045-261-3168/FAX 045-261-3169

定価 本体三〇〇円＋税 ◆四六判上製 ◆二四八頁

語りかける福音の言葉
四電 揚著

この最後の者にも 福音書の語るメッセージ



小倉和二郎

戦後七十年、広島長崎の被爆から七十年にふさわしい説教集が刊行された。著者がこの書を「伝道メッセージ集」の形になったと紹介している十二回の説教のうち、前半はヨハネ福音書に基づき、後半は主にマタイ福音書の講解である。そして末尾にキリストの受難と十字架そして復活を証しする説教で締めくくられている。

この書を紐解いた全般的な印象は、文体が実に平易で明晰であることである。さらに語り手が聞き手と全く同じ平面に立つて向かい合い、相手の心に届くように語りかけていることである。著者は、優れた演出家による演劇のレッスンの手法を引用しながら、相手の胸にストレートに届く語り方の訓練を紹介しているが、説教者である著者自身が長年の経験と修練によって、聞き手に確実に届く言葉を語る術を身に着けた人であると私は納得させられた。

著者は前書きで自身の被爆経験に触れ、「十三歳の時に生かされた少年が牧師として語り続けた喜びのメッセージが拡げられて行くことを祈ってやみません」と書いておられる。その願

い通り、著書全体が正に福音の喜びに溢れて、その喜びが読者の胸にさざ波のように押し寄せてくるのを感じることが出来る。私自身、この書を読みつつ、自分の心が開かれ虚飾を脱いで、ありのままの自分を見出す幸いを味わうことが出来た。

そのことを可能にしているのは、著者自身の少年時代の家族ぐるみの被爆経験であり、それに伴う未曾有の経験を辿りながら、キリストの福音によって生かされて来た特異な体験にあると思う。「究極の愛」と題されるヨハネ福音書第13章に基づく説教には、かつてロックンロールの王と呼ばれたE・プレスリーの「夕べの祈り」が引用されている。その歌詞には「もし今日私が誰かの心を傷つけたり、躓かせたり、自分自身が惨めな者であることを忘れた一日だったら、主よどうぞ私をお赦しください」という祈りが捧げられている。著者はこの祈りに深く共感している。私はこのくだりから、ハイデルベルク信仰問答の冒頭にある、人間の本質的な惨めさとキリストの贖罪による救いの深い慰めの言葉を連想した。福音の喜びの証人は、自己の罪の悲惨さを片時も忘れず、しかもその惨めさを根底から支

え、罪から解放してくださいとさるキリストの贖いを信じて生かされている者だからである。

「仮住まいの生活」の説教の中で著者は、被爆によって夫婦を失っていること、その悲しみと苦しみを母が生涯絶えることなく負い続けて、

○夜も昼も地をはい回る母ごころ 神許しませ しばらくの間を

との短歌を遺していることを紹介している。著者も家族の一員として同じ苦しみと問いを担い続けながら、キリストの福音によって支えられてきた信仰の証人である。

書名となった「この最後の者にも」は、マタイ福音書第20章に基づく説教である。ぶどうの収穫期に雇われた労働者たちと雇い主との間で、賃金の額と支払い方をめぐって物語が展開する。著者は、長時間働いた人、短時間の人、その中間の人たちそれぞれ夫々の間の思惑や不満を描写しながら、この物語が現代社会の

事業体や雇用の問題、さらにそこで起こる能力差や差別にもつながる比較の問題にまで言及する。そして最終的には、雇用主に譬えられる主なる神の御心がどこにあるかが指し示される。さらに著者は、その御心を受け入れて感謝したのは最後に雇われた人だったことに焦点を当てて、最後の者にこそ惜しみなく注がれる神の愛を、著者自身が最後の者として、パウロのように(1コリント15・9-10)感謝を表している。ここにも著者の、最も低い立場から語りかける姿勢が表されている。あとがきに代えて、著者の「被爆体験を踏まえて」の一文が載せられているのは、極めて貴重である。読者は、この一文によって著者が福音の証人として牧師になった経緯を知ると共に、この説教集のメッセージを一層掘り下げて受け止めることができるからである。

(おくら・わさぶろう) 日本基督教団隠退教師
(四六判・一六〇頁・本体一五〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

現代聖書注解
全44巻《第42回配本》

サムエル記下

W・ブルツゲマン 矢田洋子 訳



イスラエルが国家へと変容する激動の時代。政治的社会的現実主義、ダビデという独自の人物、主なる神の現臨という三つの要因から聖書を読み解く。
A5判 上製・2568頁・5400円

この最後の者にも 福音書の語るメッセージ

四電 揚



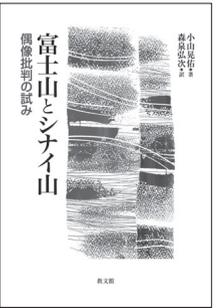
主イエスの誕生から復活までを語り、新しい生き方を促す12の喜びのメッセージ。福音書を貫いてあらわされる豊かな神の愛が心にしみとおる。
四六判 並製・160頁・1620円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigy@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

今も新鮮に響く鋭い批判

小山晃佑著
森泉弘次訳

富士山とシナイ山 偶像批判の試み



松本敏之

「ついに出了！」。原著出版（一九八四年）から三〇年の時を経て、世界で恐らく最も有名な日本人神学者であった小山晃佑の主著にして、歴史的名著の日本語版の登場である。小山の死からもすでに五年が経過した。筆者は、ニューヨークのユニオン神学大学において、小山から直接薫陶を受けた日本人の一人として、訳者の森泉弘次氏に心から感謝の意を表したい。

全体は四部に分かれ、それぞれ、エレミヤ四・二六、詩編一二一・二、出エジプト二〇・七、ホセア一・八が、モチーフの聖句として掲げられている。各部ほぼ五章ずつ、全部で二〇章の構成となっている。

この書物には、三つの視座がある。第一は、小山の少年時代の戦争体験である。東京大空襲と広島・長崎の原爆投下。それは果たして日本に対する神の裁きであったのかと問う。小山は天皇を頂点にした国家神道と軍事政権を批判的に検証しつつも、空爆をしたアメリカの罪も見逃さない。

第二は、アジアの宗教との対話による視座。『富士山とシナイ山』という書名がそれを象徴する。その視座は、タイ、シン

ガポールなどで神学教師を務めた経験によって培われたものがあり、『水牛神学』（邦訳は二〇一一年に教文館から刊行）に遡る。さらに、日本の古代から現代までの思想も縦横無尽に描かれる。それらは英語圏の読者を想定して書かれているが、日本人にとっても新たな発見に満ちている。小山は、仏教がどういふ宗教であるかを紹介し、尊敬すべき宗教であることを力説する。仏教学者は小山の仏教理解をどう評価するか、日本語版の出版を機に、対話の輪が広がればと思う。

第三は、ニューヨーク市民としての視座である。執筆当時のレーガン政権の軍事大国化路線、またそれを容認し支持するキリスト教界と神学を批判する。「われわれも軍事力という、核爆弾という偶像の前で香を焚き、生け贄を献げ、頭を垂れて、礼拝している。この偶像が国家の政策を指図している」（二六六頁）。

さてこの書物は、小山の著書の中では最も体系的なものであるが、それでも一般の組織神学的な展開の仕方ではなく、小山の他の著書同様、聖書默想的である。先述の聖句を始め、幾つ

かの聖句がモチーフとして繰り返され、それと対話するように思索が深められる。あたかも循環形式の音楽のようだ。

小山は、「神学は、人間の貪欲との闘いについての仏陀の教えと……イスラエルの神の激しく動かされる心とを、かかわらせる課題と取り組まなければならない」。それは「当惑させるような曖昧さの領域」「二種の周縁」であるが、「神学は、周縁にまで赴いたキリストに従って周縁にまで行かねばならない」と言う。そして「わたしは二者の神学的架け橋となる思想を示唆するつもりである」（三三二頁）と神学的決意表明がなされる。

そのような思索から、今日のわれわれにとって偶像とは何かを示しつつ、それを批判していく。そして小山流の「十字架の神学」から、キリスト者が生きるための四つの大事なポイントを示す（三八四頁以下）。その第一は、「破壊ではなく創造を擁護する」ということである。「絨毯爆撃による荒廃地ではなく人間が暮らす世界を、死ではなく生を、敵意ではなくもてなし

の心を、残忍ではなく憐れみを擁護する」。第二は、「われわれが世界とわれわれの運命について最終決定的な言葉を持つていない」ということ。そこで自己栄化から謙遜へと向かわされる。

第三は、「多くの神々（偶像）が現存していることに気づかせてくれる」ということ。「皮膚の色で差別する神、知的能力の神、良い収入の神、大砲とミサイルの神など——われわれにとつてたいへん魅力的な神々がいる」。第四は、「われわれの神は熱愛の神である」と述べた上で、「周縁へ赴くことによって中心性を確立したキリストこそキリスト教的社会的認識およびキリスト教倫理の源泉である」と締めくくると。

中央志向で周縁に無配慮な神学、戦争を否定できない神学に対する小山の鋭い批判は、今も新鮮に響く。右傾化する現代日本にあって、今こそ、私たちは小山から学ばなければならない。（まつもと・としゆき「日本基督教団経緯書院教会教師」）
（A5判・四五〇頁・本体三八〇〇円＋税・教文館）

聖公会出版 ——新刊案内——

記憶の癒し

アバルトヘイトとの闘いから世界へ

著者：アフリカの神学者、アバルトヘイト撤廃運動家として敵身、そのため一九九〇年手紙爆弾テロに遭い、両手と片方の目の視力を失った。その体験から苦難にある人々の癒しの旅路に寄り添うことを選び取った。本書はその感動の軌跡を綴ったもの。故ネルソン・マンデラ元大統領が絶賛した話題の一冊。

新しい創造

聖書を読むために

著者：太田道子

著者は聖書を読むための基本事項を分かりやすく説明し、神と人間の関係を明確にする。それはクリスチャンのみならず教会の外にいる人々にも語りかけるものである。そして聖書を読むことが人々が現実的に正面から向き合い、人間と社会を癒すための力となることを示す。多くの人が待望していた碩学太田道子の久々の著作。

ユーカーリスト

新たな創造

著者：ウィリアム・ロケット

監修：竹内謙太郎 訳：後藤務

クリスチャン共同体の中心となるユーカーリストの伝統について、新約時代、中世、宗教改革時、近代、現代までの神学的解釈を網羅する。著者のクロケットは、バンクーバー神学院の組織神学教授。欧米の多くの神学校の教科書となっている定評のある一冊。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nsk-bookshop@company.email.ne.jp

■新教出版社

イエス・キリストの信仰

ガラテヤ3章1節―4章11節における物語構造

リチャード・ヘイズ著／河野克也訳

パウロの語る「ピステイス・イエスウ・クリストウ」は果たして主格的風格なのか対格的風格なのか――。長きに渡る論争に新たな視点から鮮やかな解決を提示した古典的論文。待望の邦訳。著者は4月来日予定。

A5判・480頁・予価6000円

原罪論【「ジョンナサン・エドワーズ選集」3】

ジョンナサン・エドワーズ著、森本あんり監修、大久保正健訳

「アメリカ最初の神学者」とも呼ばれる18世紀の会衆派牧師エドワーズは、独創的で精力的な著述によって以後のアメリカ教会に巨大な影響を残した。その初の邦訳選集全7巻の第1回配本。アメリカ精神の源流を理解するためにも必読の文献。

A5判・440頁・予価6000円

■教文館

ギリシア語新約聖書釈義事典【全巻セット縮刷版】

H・バルツ、G・シユナイダー編／荒井 献、H・J・マルクス監修

新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化し、以前の価格の半額で新装刊。

A5判(函入)・1788頁(全三巻)・本体63000円

真理は「ガラクタ」の中に

――自立する君へ――

大貫 隆著

学生たちに向けた奨励と、東日本大震災を通してキリスト教の信仰とは何かを語った説教を収録。現代に生きる私たちに聖書の言葉を伝える応援のメッセージ。

B6判・188頁・本体1900円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

井上洋治著作選集5 全5巻《第1回配本》

遺稿集「南無アツバ」の祈り

山根道公 解題・解説

日本人の心に届くようイエスの教えを伝えるため模索し続けた、カトリック司祭 井上洋治。思索の末にたどり着いた、「南無アツバ」の祈りのこみちを始めとして、命を賭して語られたメッセージを収録する。山折哲雄氏との対談、井上神父の詳細な年譜も併せて掲載。

A5判・248頁・本体2500円

マタイ福音書を読もう3《最終回配本》
その名はイエス・キリスト

松本敏之著

既存勢力を批判し、弱者の側に立ち、徹底的に隣人を愛せよと述べる主イエスに愛難の時が迫る。神の子であれば、なぜ十字架から降りないのか、なぜ黙っているのか。復活の主イエスがなさった「我々と共におられる」という約束を信じる者となるよう励まし、勧める。

四六判・218頁・本体1600円

讚美歌21による礼拝用オルガン曲集
第5巻 礼拝の時と教会暦2

――レント・イースター・ペンテコステ

飯 靖子／志村拓生 演奏

『讚美歌21による礼拝用オルガン曲集 第5巻』の全38曲を、曲集の編者である2人が、パイプ・オルガンやピアノで演奏した模範演奏CD。各曲の演奏に使用したストッパ・リストを収録。各曲の音色の一例を知るとともに、ストッパの組み合わせの実例を聴くことができる。

38曲収録・本体1800円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区臨海2-2 様ヶ丘ファッションセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristoku.youshoten@me@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/uev.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		nagaya-seibun@nifty.com	00810-5-14073
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibun/b/	kiorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		01150-7-45120	01360-4-1958
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18 三宮ビル2F	078-331-7569	078-331-9833		tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用		kbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://kbook.net/	01750-5-10932	017304-45044
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		020308-1283	
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2015年3月号

特集 教会と終活

人が自らの死に向かい合う作業（終活）
において、教会がなすべき援助とは？

寄稿者 石居基夫、碑文谷創、木村恵子、
一木千鶴子、中井幸夫

アジア系アメリカ人の神学 ……佐原光児

好評連載 望月麻生、高橋優子、一色哲、洛雲海

木原葉子、永本哲也、佐藤優、青野太潮、月

本昭男、沢知恵

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

キリスト教とローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由

R・スターク著／穂田信子訳

話題！ 朝日、毎日で書評

宗教社会学的手法を通して見出された、初代教会のネットワーク力を論証。

本体3200円



〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1

TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

最近、職場の朝の礼拝でアモス書を聞き続けています。

三章冒頭には次のようにありました。「地上の全部族の中からわたしが選んだのは／お前たちだけだ。それゆえ、わたしはお前たちを／すべての罪のゆえに罰する。」預言書の本質を示す言葉だと思いました。選びのゆえに罰する、とは、ものすごい言葉だと改めて感じました。

今朝、聞いたのは七章で、アモスは次のように言っていました。「見よ、わたしは／わが民イスラエルの真ん中に下げ振りを下ろす。もはや、見過ごしにすることはできない。」聞きながら、神が私に下げ振りをおろし、その歪みのゆえに、もはや見過ごしにできない、とおっしゃっているという、鮮やかなイメージが浮かんできました。それは真に厳しい言葉ですが、しかしそのような言葉も、神の選びと一体なのだとき、その背後に薄明かりを感じます。それはやはり神の招き、立ち帰

りの招きなのだと思います。

そんなふうにいるをめぐらす中で、ヨブ記三八章を思い出しました。ヨブはずっと、神さまに「出てきてください、私に語ってください」と求め続けていた。ようやく三八章で神さまが出てくるのですが、しかしヨブの期待にはまったく沿わないようなことを言い出す。「でもこの時、ヨブはうれしかったのではないか。神さまがやつと姿を現してくださいと、それだけでうれしかったのではないか。」友人がそのように言っていたことを、私はふと思い出しました。

アモスの言葉も同じなのではないか。自分の暗みを突きつけられるという意味では耳を覆いたくなる言葉です。しかしこの滅ぶべき私に神さまが語ってくださいと気づく時、そこにうれしさを感じることができないのではないか。

今朝の御言葉を通してそのように思わされました。(土肥)

自分らしい最期を生きる

セルフ・スピリチュアルケア入門

森 清



● B6判・180頁・本体1,300円
残された時間をどう生きればよいのでしょうか？ 本人も介護する人も、皆が笑顔と感謝で終末期を過ごせるようになる(心の整理術)を、在宅医療の医師が実例を交えて提案します。

バルト神学の真髓

喜田川 信



● 四六判・172頁・本体1,600円
近代神学史に不朽の名を残した神学者カール・バルト。彼の一見難解な思想を平易に説き明かし、現代を生きる教会・信徒への示唆に富んだ洞察を提示する珠玉の論考集。

争いから交わりへ



一 一致に関するルーテルⅡ
ローマ・カトリック委員会
ルーテル／ローマ・カトリック
共同委員会訳

2017年に宗教改革を共同で記念するルーテル教会とカトリック教会

「義認」「聖餐」「聖書と伝統」など、教会分裂を引き起こした神学的テーマを、両教会の対話を通して克服し、新しい「教会の一致」を模索した画期的な試み。宗教改革500年に向けて、和解と一致へと前進するため不可欠の書。
● B6判・220頁・本体1,200円

キリスト教学校教育史話

宣教師の種時きから成長した教育共同体

大西晴樹

● 四六判 216頁・本体2,600円
プロテスタント・キリスト教による学校教育が近現代史にどのような足跡を残し、信教と教育の自由を脅かす諸問題とどう対峙してきたのかを通観する小史。

イエス・キリスト時代のユダヤ民族史Ⅳ

E・シユエラー
● A5判・376頁・本体8,500円
上村 静ほか訳
本巻では、ユダヤ人の宗教生活の根源であるトーラー、その研究・教育の場である学校とシナゴーク、ファリサイ派・サドカイ派・エッセネ派などの実態について詳述する。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP : http://www.shinkyō-pb.com, email : sales2@shinkyō-pb.com

市民K、教会を出る

韓国プロテスタントの成功と失敗、欲望の社会学

金鎮虎著／香山洋人訳

韓国キリスト教会の今！

2月20日

話題騒然となった自己省察の書。韓国社会にとってプロテスタンティズムとは何であったかを韓国現代史を通して徹底検証。「日本の教界には韓国のキリスト教に対する羨望、規模や財力、熱心な信仰や社会活動に対するある種の神話化がある。本書によってリアルな韓国教会と出会っていただければと思う。」(訳者あとがきより)

◆A5変・本体2400円

パパやママががんにになったら

藤井あけみ著

チャイルド・ライフの現場から



難病と闘う子どもたちのケアを専門とするチャイルド・ライフ・スペシャリストの著者が、親が難病を抱えたときの子どもの接し方、また家族のあり方を、現場での様々な出会いを通じて温かな視線から考える。現代に必要な「いのちの教育」のあり方に対する大切な提言。

◆B6変・本体1500円

高倉徳太郎日記

秋山憲兄編

初めて公にされる約三千日分を含む「完本」

話題の書!

「主の光をうけたし」——自死直前の絶筆に至るまでを完全収録。伝道、牧会、神学教育、教会形成に全力を傾注し、ついに病に倒れた牧師の、どこまでも主の恩寵にすがろうとした壮絶な戦いのあと。

◆四六判・本体5000円

カール・バルトの教会論

佐藤司郎著 旅する神の民 ◆A5判・本体5500円

2月20日

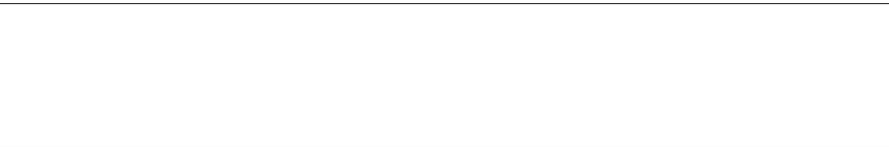
バルト神学における教会論の展開を初期から後期に至るまで綿密に追跡し、「主キリストのもとにある兄弟姉妹の共同体」としての教会像を解明した初の貴重な研究。

ヤコブ・ペトロ・ヨハネ・ユダの手紙

宮平望著 私訳と解説 ◆A5判・本体2500円

2月20日

好評の注解シリーズ第11作。1節ごとにメッセージ豊かな丁寧な注解を施す。



本心の扉
一九五七年七月一日発行 第三種郵便物認可
二〇一五年三月一日発行 (毎月一回) 日発行
第六八六号 二〇一五年三月号

発行所 〒160-8345 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三三六〇一六五二〇 振替〇一七〇一五一一六七九
発行人 本村利春 編集人 中川忠 印刷所 関平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(千62円)
一年分一三〇〇円(送料共)